

伊達千廣 ちひろ 國學者。享和二年五月二十五日紀伊國和歌山藩生れ、明治十年五月十八日没（八〇一七）。宇佐美祐長の次男、伊達氏を繼ぐ。諱宗廣、幼名守之丞、のち數馬、通稱藤二郎。號好々老人、得居士、得菴主人、綠園、自在、自在好々老人、自在懶叟、自得、自得叟、自得居士、じとく等。本居大平に入門、國學を修めた。和歌山勤王派の中心となり、幕命により紀州田邊に十年間幽閉。解かれてのち京都に住み、尊攘派志士と交はつたため、歸國を命ぜられて禁錮。維新の際許され、のち東京に移住。陸奥宗光の父。

著書に『大勢ニ轉考』、『餘身歸』（明治十年二月十五日明教書肆）、歌集『隨緣集』並『枯野集』（明治二十七年十一月二十日阪上半七刊）、『伊達自得翁全集』（大正十五年五月十八日神奈川・雨潤會、丸善株式會社發賣）、『ミニツの山路み』（井上豊太郎註、昭和十一年十月十日和歌山・起雲閣）、撰歌集『夕日岡月次集』（昭和十三年十一月八日神奈川・陸奥廣主館編刊）等。高瀬重雄『伊達千廣（生涯と史観）』（昭和十七年四月五日創元社）がある。

